

<祈りのために> 「主なる神が語られる、誰が預言せずにはいられようか」

アモス書3章8節

「アモスのことば」として記される預言者アモスは、自分の地位や教養を誇るような職業的預言者ではありません。彼はヤハウエの召命により神の使者となった者であります。アモスは繁栄の極みにあるイスラエルがやがて滅亡することを預言しました。獅子のように叫び、雷のように轟くヤハウエのみ言葉を語りました。物質的豊かさが、宗教と道徳を著しく低下させた事実を拗って語りました。アモスはあたかも神自身が彼において語っておられるように語りました。ヤハウエの言葉を受けた預言者は語らずにはおられないからであります。

パウロは「もし預言の賜物を持っているのであれば、その信仰に応じて預言しなさい。」(ロマ書12章6節)と言っています。ですから、預言する力を持っているキリスト者は、この世に向かって預言しなければなりません。

キリスト者は正義と公平を行うために選ばれました。選ばれたと云うことは一回限りのことではなく、現在も神の選びの愛が継続して注がれ続けていることを意味します。その神の選びの愛と共に、神のみ旨を諸国民に示し続ける義務と責任がキリスト者にあります。

主なる神は、預言者に神のはかりごとを示されます。その預言者の口を通してすべての者に神のみ旨は告げられるのです。預言者は主から召され、全権を託されて派遣されているのです。預言者が語った言葉はそのまま主がなそうとする事柄なのであります。ですから、預言者は主から受けた言葉は語らずにはおられないのであります。

一旦、預言者として選ばれた者がその使命を果たさずにいることに対しては、主の怒りが激しく襲いかかるのであります。

わたしたちは現象面からの判断ではなく、信仰の根源である主に対する信頼と主との約束に従わなくてはなりません。主が語られる主の声を聖霊の耳をもって聞かなければなりません。ただただ、神の声を謙虚に聞くことであります。主に捉えられた者は、口を開き主のみ言葉を語るのみであります。口からほとぼしりである言葉、それこそが預言であります。主からみ言葉が与えられたならば、誰はばかることなく語らなければなりません。

祈り 「主なる神よ。あなたからみ言葉が与えられたならば、臆することなく語れる者としてください。主の名によって祈ります。」

## 延辺（エンベン）朝鮮族自治州を訪問して

谷川雄一郎（鶴見教会会員）

この夏、韓国・李明博大統領の「天皇陛下が韓国を訪問するなら独立運動の犠牲者に謝罪すべきだ」という趣旨の発言が大きな問題となった。日本のメディアはこぞってこの話題を取り上げたが、その関心は、もっぱら大統領の天皇に対する「非礼」を譴責（けんせき）することに向けられた。もっとも発言の背景には大統領への支持率低下があったとされ、政治的パフォーマンスに過ぎないとする批判も一面において理解し得るものであると思う。しかしどのような政治的意図があったにせよ、発言中の「独立運動」について、日本国内で果たしてどれほどの関心が向けられたであろうか。なぜ大統領は「独立運動」を取り上げたのか、それは韓国や中国においてどのように認識されているのか、また日本はそれにどう向き合ってきたのか、犠牲者とは誰であったのか、こうした関心から発言を取り上げたメディアは皆無だったのではないか。

東北アジアにおける朝鮮独立運動の歴史は、靖国神社の問題とも密接に関連するので、以下、浅薄ではあるが、筆者が見聞してきたことを少し紹介しようと思う。

今年8月下旬から9月初旬にかけて、中国吉林省延辺朝鮮族自治州（以下、延辺とする）を訪問する機会を得た。個人旅行だったが、この地域の歴史について関心があり、筆者にとっては10年ぶりの再訪となった。

延辺は中国と北朝鮮との国境に位置し、かつて朝鮮半島から移り住んだ人々の子孫が、中国籍の「朝鮮族」として多く暮らす。有名なクリスチャンの詩人である尹東柱（ユン・ドンジュ）もこの地に生を受けた。延辺では20世紀初頭からカナダ長老教会の宣教師を中心に活発な伝道活動が行われており、多くの教会やキリスト教系の私立学校が設立された。

日本による朝鮮植民地支配以降、延辺は朝鮮独立運動が最も盛んに展開された地の一つとなったが、その中心となったのが教会やキリスト教系の学校であった。年々激しさを増す独立運動を抑えこむため、1920年、日本当局は軍隊を動員して独立運動の弾圧を行い…間島（かんとう）出兵…、その過程で多くの無辜（むこ）の民衆が虐殺され、抵抗の拠点となっていた教会や私立学校が焼き払われた。日本で語られることのほとんどない間島出兵だが、現地では虐殺事件があった場所には石碑が立てられるなど、延辺の、特に朝鮮族の人々にとっては決して忘れ得ぬ歴史的事実となっている。

靖国神社に祀られている「英霊」には、間島出兵時における戦死者も含まれているのである。つい先日もある閣僚が靖国を参拝した。曰く「日本の平和をしっかりと続けていくという思い」で参拝したと。平和とは一国の独善的な思いで構築しうるものではない。靖国神社の「英霊」とは、アジアの民衆から見ればいかなる存在であったのか、この点を看過しては韓国や中国との和解への道のりは遠のくばかりであろう。

いまキリスト者としてアジアの人々と向き合う際、祈りの課題として何を覚えなければならないのか、この夏改めて深く考えさせられた。

## <ヤスクニ・ニュース>

### 「慰安婦の尊厳のため靖国放火」

昨年 12 月 26 日に靖国神社に放火し、今年 1 月 8 日にはソウルの日本大使館に火炎瓶を投げ入れた韓国に服役中の中国人、劉強（リウ・チアン）受刑者（38）をめぐって、日本が「犯罪人引き渡し」を求めているが、中国側も自国民だという理由で同受刑者の送還を求め、韓中日 3 カ国間の外交問題に発展している。

この中国人の身柄の扱いを決める審理が 11 月 29 日、ソウル高等裁判所で開かれた。男は「自分の利益のためではなく、慰安婦の苦痛を味わった韓国人と中国人の尊厳性を守るため、日本の軍国主義者の反人倫的な行動に抵抗しようと思った。祖母は慰安婦にされた被害者で、曾祖父は日本植民地時代に韓国語を教えていたところ、捕まって拷問を受けた。祖母の体験を聞き、日本に敵意を持つようになった。犯行を決意したのは、昨年 12 月に李明博大統領が訪日し慰安婦問題で謝罪を求めたものの、日本政府が受け入れなかったためだ」と放火の理由を説明した。その上で「もし日本に引き渡されたら、不公正か大変厳格な裁判を受けることになる。中国で裁判を受けることを願う」と訴えた。

検察は、「動機や目的などで政治犯に該当する要件を満たしていない。日本当局は放火罪で処罰しようとするもの」と、引き渡し許可を求めた。次の審理は 12 月 6 日の予定。

（ソウル聯合ニュース 11 月 29 日）

### 沖縄で「天皇陛下万歳」を叫ぶ提灯行列

報告 川越弘（沖縄伝道所牧師）

復帰 40 年を記念して、沖縄県は天皇夫妻を迎えて、11 月 17,18 日、第 32 回「全国豊かな海づくり大会」を開催した。戒厳令並みの警備体制で、県外からも動員された約 3000 人の警官が警備に当たり、主要な道路での検問や一時通行止め、周辺の海上では第 11 管区海上保安本部が巡視船を出してテロ警戒にあたるという物々しさ。そうした中で、国際通りの「天皇陛下万歳」を叫ぶ 2000 名規模の提灯行列があった。

実行委員会の名簿を見ると、沖縄県知事・県議会議長・市町村・水産農林・教育・財界・観光業の長、琉球新報・沖縄タイムス等、沖縄県民総動員体制の名を連ねている。天皇夫妻は、20 日久米島を訪れた。久米島町は、町予算で日の丸の小旗 5 千本を買って歓迎を呼びかけた。町人口は約 8500 人である。知事はこの行事に満足しているようだ。

私たちは「海づくり大会への天皇出席反対！アクション」を起こして、天皇への公開質問状・シンポジウム・デモ行進を行なった。反対の理由は「女性暴行や酒酔米兵の中学生乱打事件、尖閣諸島国有化やオスプレイ配備と日米軍事訓練のこの時、沖縄民衆に天皇への「親しみ」と「一体感」をもたせ、沖縄人の自決権を空洞化させて政府に抵抗しない従順な沖縄民衆づくりと政. 官. 軍. 民共同防衛の一体化。皇太子時代の海洋博出席を機に、本土業者によるホテル建設の乱発で海岸が汚染されていること。漁獲量と漁民減少の原因は、沖縄漁業関係者の常時立入り禁止の 29 カ所の米軍海上水域訓練場にある。天皇明仁は、就任（即位）後に『大行天皇の御遺徳に深く思ひをいたし』と、昭和天皇の業績を讃え、その意思を継承し戦争責任を不問にしている」にある。

デモ行進は、17 日（土）、雨の中国際通りで行った。130 人が右翼からの妨害を跳

ね返すようにして声を上げた。18日（日）は糸満会場付近（教会人欠席）で、120人で行った。天皇への公開質問は、「1. 沖縄戦で亡くなった人々をどう考えるのか。2. 米兵の暴行事件やオスプレイ配備などの在沖米軍基地強化が続くのは、1947年9月の『昭和天皇メッセージ』が原因ではないか」。

来年の「海づくり大会」は、熊本県の水俣で行う。その目的は、水俣病「終始宣言」を天皇出席のもとで確認をする時と考える。国は水俣病措置法に基づいて、認定患者救済申請を7月末で打ち切り、「水俣病の環境復元が完了し、豊饒の海であることを発信する」という。そこには水俣病患者の切り捨てがないか。昨年は「竹島の日」を定めている鳥取県で行った。「全国豊かな海づくり大会」とは、天皇「巡幸」の国民統合という政治的色彩の強いものである。

### 普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会

沖縄のキリスト者は、超教派で普天間基地野嵩（のだけ）ゲート前で、聖書朗読と祈りを交えながら賛美歌を歌って、基地反対・オスプレイ強行配備反対・海兵隊の暴行事件に抗議している。10月28日～12月18日まで、毎週月曜日の午後6時～7時と毎週火曜日の午前7時～8時。代表は、神谷武宏（普天間バプテスト教会）。これにつなげて、首相官邸前でゴスペルを歌う会が起こっている。11月26日～12月17日まで。午後6時～7時。呼びかけ文は「普天間基地の抗議は、本当は私たちのなすべき戦い。一緒につながりましょう」。呼びかけ人は、「平和を実現するキリスト者ネット」。

### 【新刊案内】『天皇の代替わり問題とキリスト教 Q&A・わたしたちは天皇制をなぜ問題にするのか』（NCC靖国神社問題委員会）

近づきつつある“天皇の代替わり”に際して、NCC（日本キリスト教協議会）靖国神社問題委員会は、上記の書物を出版した。新たなXデーに向けての最初のブックレット出版。第1章「天皇の代替わり」、「天皇が死去したら、どんなことが行われるのでしょうか？」から始まる26の「Q&A」。13の代替わりに関する「コラム」を掲載。過去の代替わりに関しての各教派・団体の「声明」、新旧皇室典範対照表、宮内庁関係予算、「即位の礼・大嘗祭諸儀式」などを収録。このブックレットは、「国家による追悼は、なぜ問題なのか～国立追悼施設 Q&A」（2004.8）、「同～靖国問題・国立追悼施設 Q&A」（2006.6）、「同～千鳥ヶ淵問題 Q&A～」（2008.8）、「わたしたちは天皇制をなぜ問題にするのか～天皇制問題 Q&A～」に続くシリーズ5冊目。1冊500円（送料別 10冊以上の申込みは送料無料）申込み・問い合わせはFAXまたはメールで。日本キリスト教協議会（NCC）靖国神社問題委員会 〒169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18-24（担当・大島博幸）Fax. 049-293-1002、メール アドレス fujibap@blue.ocn.ne.jp

### <訂正とお詫び>

「ヤスクニ通信 10月号, 11月号」の第二面、「中国の教会との交わりを望みみて」の執筆者「渡辺裕子」を「渡辺祐子」に訂正いたします。お詫びいたします。（編集人）

695号 ヤスクニ通信 2012年12月9日  
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会  
発行人 加藤正勝 編集人 川越弘  
印刷・発行 栗田英昭（多摩ニュータウン  
永山伝道所）〒206-0025 東京都多摩市永山  
1-16-11 TEL&FAX 042-376-9514